

「本づくり情報紙ゆるり」は、長崎市を中心とした主なコミュニティ施設に配布されています。

# 自費出版サロンゆるり

〒850-0875長崎市栄町6-23 昭利堂ビル2F

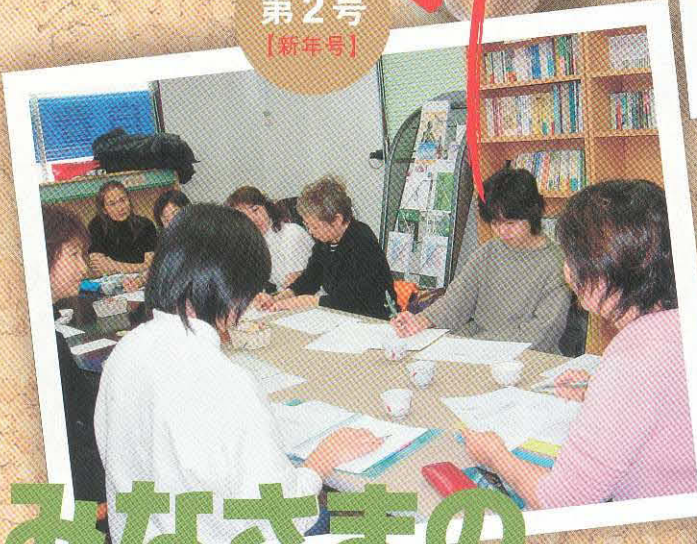
☎095-828-1790

©制作・発行/ 昭利堂

Yururi  
Heartful salon

あなたの本づくりを  
応援する情報紙

第2号  
【新年号】



## みなさまの コミュニティスペース サロンゆるり、活動中!

本づくりへの熱い思いを  
語っていただきました!

### 私と本づくり

自費出版  
体験記

『朝鮮通信使の道』仁位 孝雄さん

『雪の航跡』濱口 照子さん

『わかってよ part1』いとうくにこさん

『長崎～江戸 歴史街道を歩く』餅田 健さん

当社がお手伝いした25冊をご紹介します!

### 新刊紹介

皆様の本づくりをもっともっとお手伝いしたい...そんな願いから生まれたサロンゆるりは、おかげさまでオープンから半年、こうして新しい年をお迎えることができました。すでにたくさんの方々にお越しいただき、コミュニティスペースとしても、たくさんの方々の皆様からご利用いただいています。

本が好きな方、本に興味がある方、どうぞ図書館や本屋さんに立ち寄るような気持ちでサロンへ遊びにいらしてみませんか。たくさんの方の自費出版本たちが皆さんとの出会いを待っています。どうぞ本年も、サロンゆるりをよろしくお願い申し上げます。



CONTENTS



日韓の友好交流を支えた朝鮮通信使4000キロの道程を、十余年にわたりカメラで追い続けた仁位さん。その貴重な記録を出版なさった時のお話をおうかがいしました。

**「もともと『朝鮮通信使の道』の写真を撮ろうとしたきっかけがお聞かせください。」**

昭和60年代初め、小倉〜長崎間の「長崎街道」ブームが沸き起こりましたよね。その時、対馬出身の私は、「いやいや、長崎街道どころではない、「大街道」が対馬にはあるぞ！」と撮影を思い立ちました。それが韓国ソウルから江戸、日光まで、往復4000キロのこの「朝鮮通信使の道」なんです。それ以来、十余年この道に魅せられのめり込んでしまっただけです。

**「通信使の4000キロの足跡を、十余年もかけて撮り続けられたようですが取材には大変な苦労があったことでしょうか。」**

苦労したこと…それは通信使の歴史を初めから学ぶことでした。通信使の歴史を知らなければいい写真を撮ることはできませんから。幸い対馬には、日韓両国から著名な先生方がよく来島されます。お亡くなりになられた辛基秀先生をはじめ、両国の先生方にいろいろとご教示

いただきました。今では、その先生方とのつながりは私の大きな財産ですね。また、県外での資料館での撮影で、せっかく撮影許可を頂き撮ったのにライティングを失敗して使いモノにならなかったり、被写体を間違えも撮って帰ったり…など(笑)、本当に笑うに笑えない苦労がたくさんありましたよ。

**「国内並びに韓国釜山市での写真展の反響はいかがでしたか？」**

日韓国民交流年の2002年にこの写真集を発刊し、長崎をはじめ東京など国内で9箇所



2002年、韓国釜山市での写真展の様子

◆朝鮮通信使とは

室町から江戸時代にかけて、朝鮮から日本に対して派遣された公式の使節団(一行300人〜500人)。朝鮮国王と日本国(大君)将軍とが対等の礼儀をもって国書を交換した。道中では、通信使の一行と日本の学者や文人、庶民など多くの日本人との交歓が盛んに行われた。

そして釜山市でもこの写真展を開催しました。どの会場も大好評を頂きましたが、特に釜山市では大学生が通信使の勉強にと大勢詰めかけて来られたのには驚きましたね。釜山日報社の社長からは、韓国人がしなければならぬ仕事をやってください、とお褒めの言葉も頂くことができました。永い年月をかけて撮り続けて本当に良かったと実感しましたね。



釜山日報ギャラリーにて

**「仁位さんのこれからのご予定、意気込みをお聞かせください。」**

今、「冬ソナ」を先頭に「大韓流の波」が押し寄せ、韓国文化が様々な形で日本に浸透して来ていることは、本当に嬉しい限りですね。来年は「日韓国交正常化40周年」を迎えます。これらを契機に、通信使のような歴史の分野にも、もっともっと光が当たることを願っています。美しい故郷対馬、そして海に向こうの韓国に思いをよせながら今後も両国の架け橋となるような写真を撮り続けていきたいですね。

故郷対馬を愛し、写真という世界を通じて日韓の交友を深めていらっしゃる仁位さん。対馬を軸に日本と韓国の文化交流の促進に、これからもさらなる活躍を期待しています。

# 私と

自費出版

## 朝鮮通信使の道



仕様 サイズ:B判変形(22.5×25cm)  
 頁数:124ページ  
 紙質:本文/スーパーアート(135k)  
 見返し/タント(130k)  
 製本:上製本PP加工

今こそ、真の日韓交流の時代。  
 この本が、その架け橋になれば...

仁位さんの出版ジャンルは

『写真集』

長年かけて撮影された自然や風土、出来事などの創作作品を集大成して後生へ残していくものです。

## 『朝鮮通信使の道』

仁位 孝雄さん

定価2,800円(税込み) 平成14年7月21日発行  
 発行:杉屋書店 TEL・FAX(0920)52-0600





終戦後、北朝鮮をさまよい歩いた苦難の日々：そして日本へ戻つてからの故郷五島の人々と心のふれ合い：激動の人生を歩んでこられた濱口さんだからこそ紡ぐことができた、心あたたまる一冊です。

この度のご出版がなんと4冊目の濱口さん。いつ頃から創作を始められたのですか？

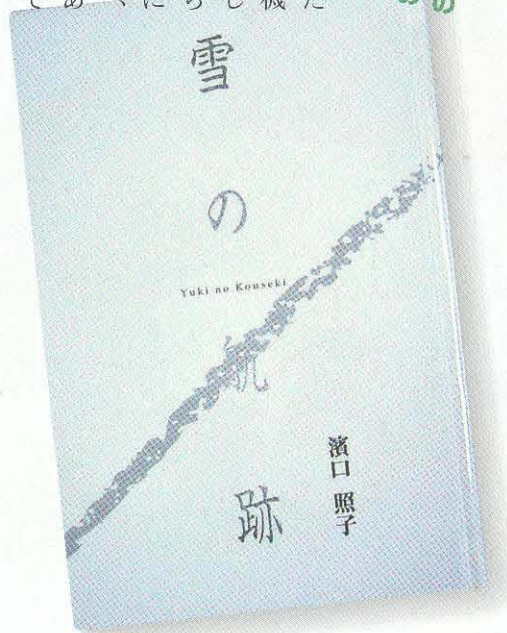
教職について10年ほどたった後、初孫が生まれて、それを機に長崎新聞にエッセイを投稿したのがきっかけですね。それから毎年いろんな新聞や雑誌に投稿しました。佐世保文学祭、長崎県文芸協会など、多くのありがたい賞をいただくことができました。

もう、すごい反響でした。長崎新聞への掲載がきっかけで市内はもとより、県外からも問い合わせが殺到し、買い物バッグ2つ分になるほどの感想のお手紙もいただいたんですよ。その方々とのペンの上でのおつき合いも増えましたね。また、福江の町には読書会があるんですが、その会員の方の朗読で、テープに録音し、視覚障害者の方々に贈りましたところ、それはそれは大変喜んでいただいていた。この本を出

次ページにも体験記を掲載しています！

自費出版体験を4人の著者の方に語っていただきました。

体験記



濱口 照子  
サイズ:B6判  
頁数:350ページ  
紙質:本文/書籍用紙白(67k)  
見返し/新利休(120k)  
製本:上製本ビニルカバー

第2回

本

版したことによって、各学校への講演、さらに本の部を抜粋して広報紙に、との依頼などもいただいていた。

とにかく元同僚や、教育に携わっておられる先生方から「自分も本を作りたい」と色々問い合わせがありましてね。やはり心に表現したい胸こづかれる想いというものは誰にでもあるのでしょう。ただ、なかなかきつかけやタイミングを逃してしまわれる方も多いのじゃないかな。その点に関しては、私は大変恵まれていたと思います。あらためて「本」というものの威力を感じました。

戦前戦後の混乱期を生き延びた濱口さん。子どもや故郷の五島に大きな変化を感じておられますか？

子どもたちが本を読まなくなり、マンガやテレビゲームに走る傾向が強くなりました。また、特に感じるのは日本の美しい言葉遣いや漢字を知らない子どもが多くなったこと。以前、図書の評議委員をしていましたが、大人でもよく本を借りに来るのは地元の方よりも、転勤して五島に来られた方が熱心なんです。もっと地元の方にも、本に親しんで欲しいですね。

最後にこの本『雪の航跡』を手にされる方へのメッセージをどうぞ！

自分の“想い”や“生きたことへの証明”をこの本は私に与えてくれました。本にして大変良かったと思っています。そして昨年はこの本で15年度の長崎県文芸協会の最高の賞である文学賞をいただくこともできました。大変名誉なことでも、心からうれしく思っています。少しでも多くの方に読んでいただけたら、こんなに嬉しいことはありませんね。

身近に題材を取りながら、のびやかに優しいタッチの中にも心を揺さぶられる力強い表現：濱口さんの文章にはそんな魅力が溢れています。

これからもお体を大切に、健やかにお過ごしください。どうぞ心よりお祈り申し上げます。

想いが“本”になることの威力を、あらためて感じましたね。



『雪の航跡』

濱口 照子 さん

平成15年1月1日発行

濱口さんの出版ジャンルは

《エッセイ》

日頃の生活の中で思わぬ人との出会いや体験を、文章にして他人へ伝えるものです。





この詩を書き進めてきたきっかけは？  
今まで、フルタイムで働きながら仕事と子育ての多忙な毎日の中で、裕基の心の中をわかってあげられませんでした。今年になって、ふと「息子はどんな気持ちでいたのだろう」と考えるようになったんです。そしたら、心のどこかで感じていた言葉たちがあふれてきて…それを一気にこの本に書き上げました。

ねえねえお母さん／わかってよ／ぼくは／思ったことを／うまく伝えられない  
長崎市西北町のいたうくにこさん。昨年6月に初の詩集を自費出版されました。障害をもって生まれた長男裕基さんの成長を振り返り、折々の心の対話をつづった詩集です。

仕様 サイズ:B6判  
頁数:40ページ  
紙質:本文/上質紙(135k)  
見返し/タント(100k)  
製本:上製本



### TBSテレビ 『3年B組金八先生』でこの詩集『わかってよ』が登場!

昨年12/17放送の第10話で弥生ちゃんが読んでいたのがこの『わかってよ』でした。「弥生と同じ発達障害の子どもを持つ、九州のお母さんが書いた本」と紹介。脚本家の小山内先生に本をお送りしたところ非常に感動されて、ドラマの中で使われることになったんだそう。いたうさんは「すごくびっくりしています。これを機にたくさんの方が本を手にとられて、読んでいただけたら嬉しいです」と喜びを語っていました。

『わかってよ Feel me』のホームページ。いたうさんの日々の日記や詩を電子ブック形式で、ページをめくるように詩を読むことができます。  
<http://www.kuni.cci-link.net/>

いとうさんにとって初めての出版、ご苦労はありましたか？  
実はそんなに苦労は感じなかったんですよ。楽しみながらやってきました。書くことと思つたときから全てが流れはじめ、友だちがいろんな形でサポートしてくれました。この詩を読んでも感動してくれた友人がイラストをつけてくれたり、ホームページを作ってくれたり…『わかってよ』を、それぞれの得意分野でコラボレーションしてくれた結果が、この本なんです。

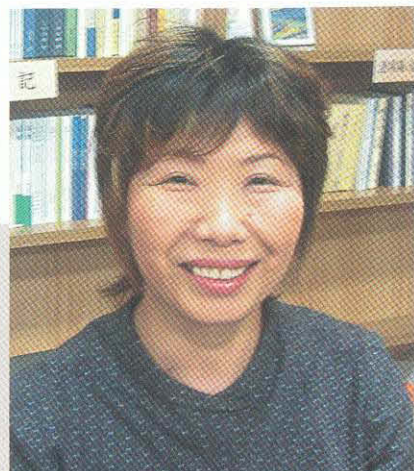
詩集を出版されて、周囲の皆さんからの反応はいかがでしたか？  
とにかくすごく広がっています。ホームページでの反響もすごくありましたし、84歳のおばあちゃんから心あたたまるお手紙をいただいたり、子どもと一緒に読み仮名をふって読んでます。すつていう方もいたり、いろんな年代のいろんな意見がこえてきて…その反応はとっても嬉しいですし、励みになりますね。

出版後の活動がめざましいですが、そのあたりはいかがですか？  
ありがとうございます。新聞各紙をはじめ、長崎・福岡の各テレビ、ラジオや昭和堂さんのラジオ番組FM諫早「本つくりのトビラ」でも紹介していただきました。さらには久留米の小学校で、お母さんたちとの交流座談会なども…この詩集が私をいろんな出会いに導いてくれるんです。  
最後に、読者のみなさんにメッセージをどうぞー！

書き上げてみて思うのは、心の奥の声は、障害とは関係なくどの人も同じという気がしています。裕基の心の声に耳を澄ませていると、常識やしらがらみで見えなかったピュアな部分が見えてきます。また、この詩集は、年代性別を問わずそれぞれの今の心境や境遇で、幾通りもの読み方ができます。大切な気持ちを忘れたくない人たちに読んでもらえれば、嬉しいですね。

“わたしはこのままでずっとピュアなキモチをあふれるまま詩に紡ぐいとうさん。読者から寄せられるたくさんのお声の励みに、第2作目を制作中とのこと。今後もご活躍、楽しみにしています。”

# この本を書いて、 楽しい人生に変わりました。



いたうさんの出版ジャンルは  
《詩集》

文法にとらわれず短く磨かれた言葉で綴る自己表現。テーマは自然や日常の喜びや哀しみなど、さまざまです。

## 『わかってよ part1』

いたうくにこさん

定価1,000円(税込み)  
平成16年6月13日発行



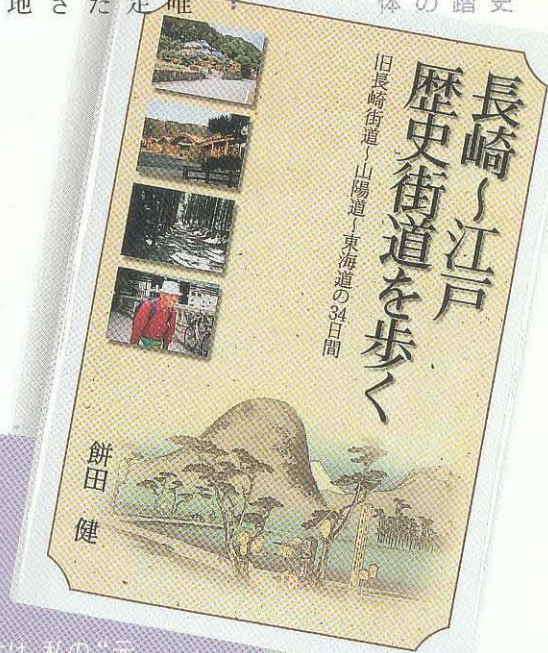
なんと長崎から江戸まで、歴史街道1380キロを34日間で踏破された餅田健さん。ご自身の“元気の証”として、この貴重な体験を自費出版なさいました。

“長崎から江戸までを歩いて”と思われたそもそものきっかけは？

長距離ウォーキングが私の唯一の趣味なんです。手を振り足を交わし、リズムカルに歩くだけでも楽しいんですが、楽しさの極みは新天地、知らない土地を歩くこと。それがこの「歴史街道ウォーク」だったのです。天保13年に長崎～江戸まで囚人を護送した街道を、越中先生にアドバイスをいただき、江戸時代の苦勞なるものを自分の足で体験すべく、歩いた次第でございます。

そしてその歩いた記録を本として残そうと思われたのは？

歴史的な考察というわけではなく、やはり、この感動を形として残したい。この34日間は私の人生において、かけがえのない出来事、そう思ったとき書籍として残すことを決めましたね。



仕様 サイズ:A5判  
頁数:118ページ  
紙質:本文/琥珀淡クリーム(90k)  
見返し/かすみ  
製本:上製本カバー付き

その歩いた記録を本になさったわけですが、ご苦勞はありましたか？

やはり文章表現でしょうか。読み手のことを考えると、多少分かりにくい部分もあるかもしれません。文章も歩くテンポでリズムカルに綴っているんです。自分の記録ですから、自分が思うとおり、納得いくように…それがかえって自分らしさがあったのではないかと思います。また道中の沢山の写真も盛り込みました。できるだけ記録として街道のイメージが伝わるように気を遣いましたね。

はじめて本を手にされた時は、いかがでしたか？

それはもう、たいへん嬉しかったですよ。自分がこの本の中に生きている、存在している、そんな



長崎から1380キロをゴールされたときの餅田さん

まさにこの本は、私の“元気の証明書”歩くペースで綴られた1,380キロの長距離ウォーク紀行。

な感じがしましたね。私にとっただけがえのない34日間の経験その一瞬一瞬が、自分が納めた写真とともにこの本に収められている…まさに私の分身とでも申しましょか。文字も大きく読みやすく、表紙もイメージにぴったりでした。

最後に、この本を手にされる方にメッセージをどうぞ！

皆さんにも、皆さんのペースでお読みいただき、自分もまだまだやれるんだぞ！と勇気を少しでも感じてもらえたらもう望外の喜びです。

また、書き上げてみて思うのは、最近の人々は、歩くことを忘れていてではないでしょうか。じつは、歩くことは自分への癒しとなっているのですよ。自分のペースで歩いて、呼吸を吐いて、心のストレスも一緒に呼吸として吐き出してしまおうんです。なんです！私をご指導してさしあげますよ！

ただひたすら自分と向き合うこと。“歩く”という行為にはそんな真意が込められているんだそうです。

餅田さんの野望？はまだまだ終わらない。松尾芭蕉が歩いた奥の細道を歩く、中国の万里の長城を歩く、そんな計画もあるんだとか。御年70になられてもなお、夢はとどまるところを知りません。これからも2冊、3冊と“元気の証明書”を発行される餅田さんを楽しみにしていきたいですね。

これは1,380キロの街道が私にくれた、“元気の証明書”なんです。

## 『長崎～江戸 歴史街道を歩く』

旧長崎街道～山陽道～東海道の34日間

餅田 健さん 定価1,000円(税込み)  
平成16年11月23日出版

餅田さんの出版ジャンルは  
《旅日記・紀行文》

各地をめくり、その模様を記録していくもの。歴史的な考察を交えるものや、エッセイ風にふれ合いを感じるなど、表現はさまざまです。







# 新刊紹介

当社でお手伝いさせて頂いた  
自費出版本をご紹介します。



## 歌集『あこう樹』

石川 幸  
平成15年8月5日発行  
昭和22年に「短歌長崎」に入会。その後昭和58年に歌会「やまなみ」に入会し、家族のことなどを詠んだ全部で1,500首以上の中から400首を選歌され、それに思い出の写真、年譜を加え、父を偲ぶ思い出の一冊として家族によって出版された遺歌集。



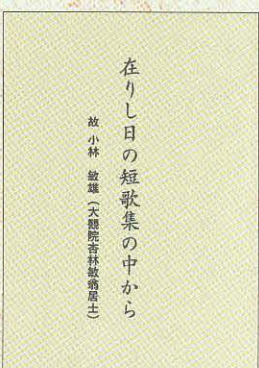
## 『諫早を歩く』

山口 八郎  
昭和堂出版事業部  
定価850円(税込み)  
平成15年1月6日第二刷  
FM諫早で50回にわたり紹介された諫早の遺跡・遺物を小学校の高学年から高齢者の方々にまで、読み易く編集したガイドブック。



## 幼年童話『赤いくれよん』

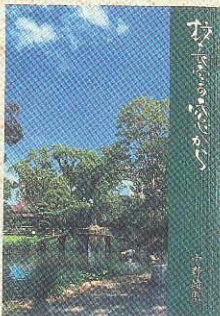
まつお てるみ(文)  
まつお としみ(絵)  
平成15年12月31日発行  
童話のおもしろさは「本当かな?不思議だな!」のメルヘンの世界だから…子どもたちにだけでなく、お父さん、お母さん、お年寄りにも読んでもらい、すばらしい親子関係が生まれるように、との願いが込められている。



## 『在りし日の短歌集の中から』

故 小林敏雄  
平成15年11月15日発行  
戦塵 侵攻編 昭和16年12月より昭和19年4月までにビルマ派遣龍兵団の奮戦のさまを、戦友や遺族、知人の方々に贈られた歌の数々を収録。

## 『校長室の窓から』



中野 靖則  
平成16年3月発行

38年間の教師生活を振り返り、周囲の方々への感謝の意を込めて出版。教え子や保護者へ宛てた心温まる手紙や折々の卓話などを収録した一冊。



## 遺歌集『白菊』

貝原よしゑ  
平成16年3月発行

著者の子もたちや孫たちへ、また生前優しく導いてくださった友人の方々へと、一周忌供養のために編んだ遺歌集。

## 『ふきのとう』



財部 徳興  
平成16年1月発行

手帳、便せん、ノートの切れ端…今は亡き母親が書きためた約150首の歌には常に細やかな感性が込められていた。その感動を一冊の遺歌集としてまとめられた書。

## 『わかってよ Prat1』



いとう くにこ  
定価1,000円(税込み)  
平成16年11月第二刷  
ねえねえお母さん…長崎市西北町のいとうくにこさんが、障害をもって生まれた長男の成長を振り返り、折々の心の対話をつづった心温まる19編の詩。



## 『空蝉』

前田 義春  
平成16年5月26日発行

妻と共に暮らした夢のような56年間…浄土に旅立たれた最愛の妻への愛惜、追慕の日々に綴られた亡妻への供養歌集。



## 句集『落友』

熊本落句会  
平成16年4月発行

句会発足20周年記念号。最近2年間に俳誌「落」や恒例の句会で詠まれた130句が収められている。

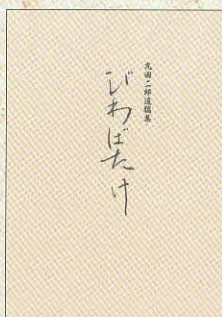
## 『ネグロス島の嵐』



宮木 利男  
平成16年6月1日発行

あの悲惨な太平洋戦争の記憶も、時とともに忘れ去られようとしている…。ハガキ一枚で召集され、仲間の屍を越え行く逃避行軍。人間の極限を体験した著者の、とこしへの平和への願いがこめられている。

## 『びわばたけ 丸田二郎遺稿集』



丸田 二郎  
平成16年6月発行

鉄道学校を卒業後外地での人々との交わりや、昭和7年の満州事変当時の状況、松花江氾濫のリアルな観察など温められていたメモを参考に綴られた遺稿集。

## 『起業家 高島正二の生涯』



高島 正弘  
平成16年7月25日発行

太平洋戦争終戦後の荒涼とした時代に徒手空拳から身を起し、あらゆる困難を排除しながら、地道に堅い事業を行い、多くの業績を残した1人の伝記。





このマークがついている本は、本紙で体験記を掲載しています。

『歌集 花衣』 森瀬 貞 平成16年6月8日発行



83歳で短歌を始めて10年の著者の第5歌集。「夏」「秋」「冬」「春」の4章に分けて、自選の115首を収録。食中毒・骨折・原因不明の発熱等に見舞われた一年間の不安定な日々を感謝の気持ちと、短歌を支えに乗り越えた作品が並ぶ。

『長崎メルヘン街道に沿って』



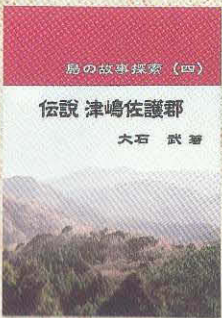
有明話の会くすのき 平成16年6月19日発行  
ふるさとのすばらしさをぜひ子どもたちに知ってもらおうと、長崎県全域に伝わる昔話を聞き取り調査して、まとめあげられた『ふるさとのおはなし 第7集』

『たゆたう』【長崎県文芸協会賞 受賞作品】



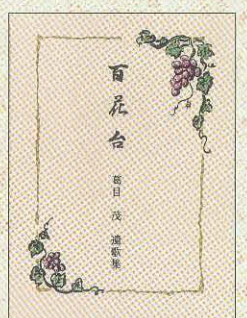
松本 風作 平成16年6月発行  
「退職後のポケ防止に……」と、奥様との旅行や日々の出来事を綴った爆笑エッセイ。風作さん曰く、ノンフィクションです!

『伝説 津嶋佐護郡 島の話探索(四)』



大石 武 定価800円(税込み) 平成16年7月27日発行  
対馬市上県郡佐護地区の歴史・伝説・くらしなど郷土の人にしか書けない伝説や伝承が蘇る書。

『葛目茂遺歌集 百花台』



石井 允文 平成16年8月1日発行  
雲仙・百花台の地で、生涯をブドウ作りに捧げる傍ら、ブドウ作りの苦労や喜びを歌に詠んだ。歌人としての葛目茂さんの一周忌に、友人の手によって出版された遺歌集。

『Today』



井関 淳子 平成16年7月1日発行  
五島市の主婦である著者の初の歌集。季節の移ろい、日々の思い、孫への願い、旅先で感じたこと等を綴った作品は、幅広い視点と感性が光る。子育てが一段落した頃から作歌を始めた著者は「短歌は自分を見つめ精神的にきれいにしていく作用がある」と語る。

遺歌集『春待草』



三浦 美智子 平成16年8月13日発行  
平成16年3月病気のため61歳で亡くなった著者の遺歌集。約15年間の作品の中から420首程を収録。ありのままの心の表出が、懸命の生を際やかに刻んでいる。巻末に家族・友人の追想、著者のスナップ写真と共に、ご主人の記した闘病メモが付されている。

合同歌集『山嶺』



やまなみ短歌会 平成16年8月20日発行  
平成17年に創刊70周年を迎えるにあたり、出詠会員243名、自選歌18首、歌数合計4,374首を収めた第9合同歌集。

山田かん追想集『かんの罎(こだま)』



草土舎 平成16年8月9日発行  
平和への願い、人間が人間らしく生きる尊さを訴え続けた原爆詩人、故・山田かんさんの奥様、和子さんが、追悼記事や全国から寄せられたお手紙などをまとめられたもの。

『長崎〜江戸 歴史街道を歩く』



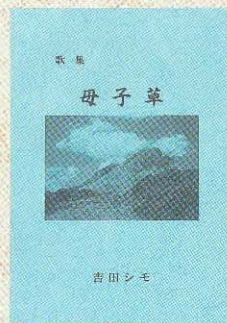
餅田 健 定価1,000円(税込み) 平成16年11月23日発行  
ゆるり書房  
長崎から江戸まで、歴史街道1,380キロを34日間で踏破された著者が、ご自身の“元気の証明書”として、この道中の体験を綴ったウォーク紀行。

『ヒヤリ・はっと Note 介護員への苦情』



原口 由紀美 平成16年11月25日発行  
直接介護人の耳に入っていない苦情や、介護員自身の心の中にしまっている“ヒヤリ・はっと”した体験をもとに、職場内の新人教育・スタッフの意識向上にまとめられたノート。

歌集『母子草』



吉田 シモ 平成16年10月発行  
現在療養施設でお過ごしの方々が、これまで四季折々に書きためてこられた数多くの歌集の中から約440首を一冊にまとめられた歌集。



サロン内 新刊コーナー

ここでご紹介した本は、**サロンゆるり**で販売いたしております。

ここでご紹介した本はサロンゆるりでご購入いただけます。また定価表示のないもの(販売を目的としない自費出版本)については、著者の方へのお取り次ぎをいたしております。どうぞお気軽にお問い合わせください。

このコーナーでご紹介した本に関するお問い合わせは

TEL.095-828-1790 FAX.095-823-8740





# みなさまの コミュニティスペース サロンゆるり活動中!

たくさんの皆様に  
ご利用いただいています!

\*サロンレポート\*

## サロンに遊びにきました!

書店には並んでないような、  
手作り感のある本っていいですね!

本というと、書店に並ぶ本のイメージしかなかったから、サロンに置いてある本はとても新鮮ですね。著者と近いというか、著者の手作り感がすごく伝わってくるような気がします。長崎でこんなに沢山の人が自分で本を作られているなんてびっくりですね。書店にはない不思議な魅力がありますよ!

諫早市在住 藤村文江さん



出版会議中...皆さん真剣です



本に囲まれて、ゆるりと本づくり相談中...

長崎市内で集まりたいんだけど場所がなくて...そんな方々に朗報!

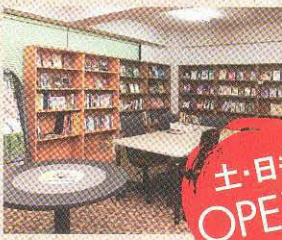
## 皆さまのコミュニティスペース サロンゆるりをご利用ください!

利用料金/1時間 **300円**

◎平日(月~金) 10:00~21:00  
◎土・日10:00~17:00

\*ご利用料金は、日本ユニセフ協会への寄付金とさせていただきます。

◎10名様程度の会合や勉強会等にサロンゆるりをお使いください。  
※コミュニティスペースは、グループでのご利用に限らせていただいております。



土・日も  
OPEN!



賑橋電停徒歩2分! 眼鏡橋すぐそば

## あなたも、サロンゆるりに 遊びにきませんか!!

できるだけ多くの皆さまにご来店いただきたいから、当サロンはアクセス良好な浜の町にすぐ近い所にあります! お近くにお越しの際には、ぜひ足を運んでみられませんか!

《営業時間》

平日 あさ10時~よる9時まで  
土・日 あさ10時~夕方5時まで

本づくりにまつわるいろんなギモン、  
この機会にぜんぶ解決しちゃおう!

## 本づくり相談会

毎週 **土・日**

■朝10時~夕方5時  
■場所/サロンゆるり



当サロンアドバイザーが、本づくりのご相談に応じます。執筆中の原稿をご持参いただいてもOK! どうぞお気軽にお越しください。

当サロンアドバイザー 原口

あなたの本づくりを応援する情報紙



第2号【新年号】  
平成17年1月1日発行  
年4回発行(10月・1月・4月・7月)

サロンに関するお問い合わせは

## 自費出版サロンゆるり

〒850-0875 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル2F

TEL.095-828-1790 FAX.095-823-8740

株式会社 **昭和堂**

制作/発行

〒854-0036 諫早市長野町1007-2  
TEL.0957-22-6000 FAX.0957-22-6690

佐世保独楽は「けんかこま」とも呼ばれる、ラッキョウ型のカラフルな独楽です。元来は、固い椎の木で出来た独楽を相手の独楽にぶつけ、打ち割ったほうが勝ち、という勇ましい遊び方をしたそうですが、現在は回っている時間の長さを競って遊びます。

### 佐世保独楽(させぼこま)

《表紙の写真》  
新年、明けましておめでとうございませう。ゆるり第2号は、いかがでしたでしょうか。今回は本づくり体験談著者の方4人、そして25冊の最新刊紹介と、ポリニュームアップでお届けいたしました。今後も皆様に有益な本作り情報を発信していきたいと思っております。この情報紙に関するご意見などございましたら、ぜひお寄せください。本年もサロンゆるりをどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

